

人形峠環境技術センターウラン濃縮施設における査察用封印の毀損について

令和4年3月22日

原子力機構は、3月17日に、人形峠環境技術センターウラン濃縮施設内貯蔵庫の30B シリンダ（濃縮ウラン）1本に取り付けられている国際原子力機関（IAEA）及び原子力規制委員会の査察用封印のうち、原子力規制委員会の査察用封印が毀損していることを確認し、速やかに同委員会へ報告しました。

別添：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センターウラン濃縮施設における査察用封印の毀損

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構人形峠環境技術センター
ウラン濃縮施設における査察用封印の毀損

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
人形峠環境技術センター
2022年3月17日

1. 発生日時

2022年3月17日（木）11時55分頃

2. 発生場所

① 施設

ウラン濃縮施設

② 作業内容

シリンダのIAEA査察用封印の検認作業

③ 封印が設置されていた対象物

30Bシリンダ（濃縮ウラン）

3. 毀損した査察用封印

原子力規制委員会の査察用封印 No. : WC05（交換日：2017年7月4日）

※ IAEAによる直近のIAEA査察用封印交換は2019年8月13日に実施（交換時に、立会者による原子力規制委員会の査察用封印の健全性確認を実施）。

4. 事象の内容

本日、IAEA査察官がウラン濃縮施設内貯蔵庫の30Bシリンダの査察用封印の交換（場所：シリンダ上部のバルブ部分）を実施した。IAEA査察官がIAEA査察用封印のワイヤーを切断し、新しい査察用封印に交換した際に、原子力規制委員会が施した査察用封印のワイヤーが毀損していることがIAEA査察官より施設立会者に報告された。なお、IAEAの査察用封印は健全な状態であった。（状況写真①②③参照）

5. 推定原因

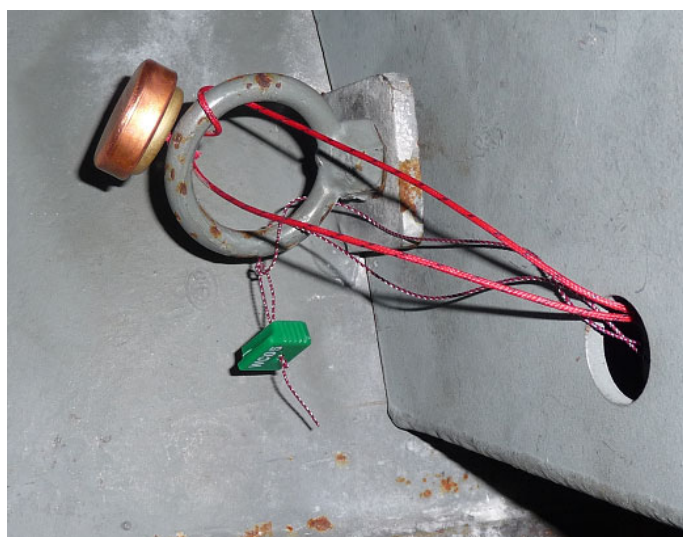
- ① 断面写真（写真④参照）より、鋭利な刃物で切断された可能性がある。また、切断面は、錆等がなく新しいものであった。
- ② 封印箇所の状態は、IAEA及び原子力規制委員会の査察用封印は同じ場所（写真⑤参照）に重なって取り付けられている。
- ③ 本封印が設置されている貯蔵庫は、限定された作業者が日常的な点検でのみ入域しており、当該シリンダの査察用封印取り付け部近傍での作業は実施していない。また、作業者に対し査察用封印への注意喚起の教育及び表示等の対応（写真⑥参照）を実施していることから、施設の作業者が封印箇所に触れる可能性はなかった。

以上のことを踏まえ、今後原因調査を行う。

6. 状況写真



①写真 査察用封印取り付け個所



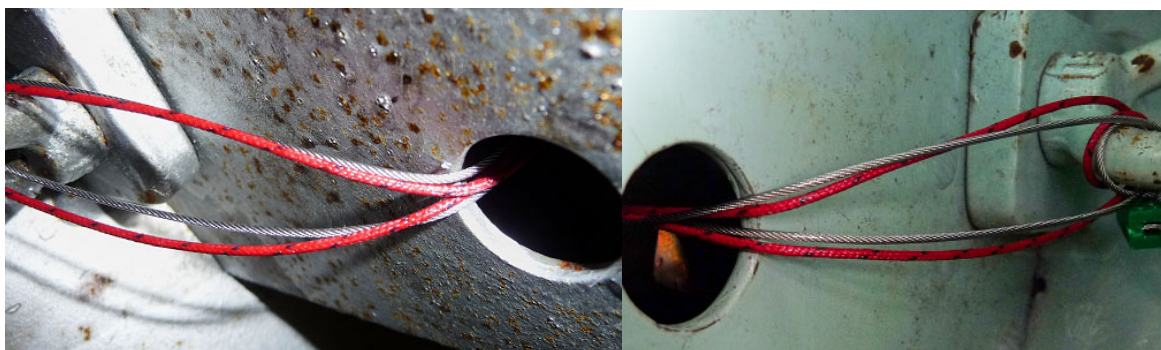
②写真 毀損した査察用封印(1)



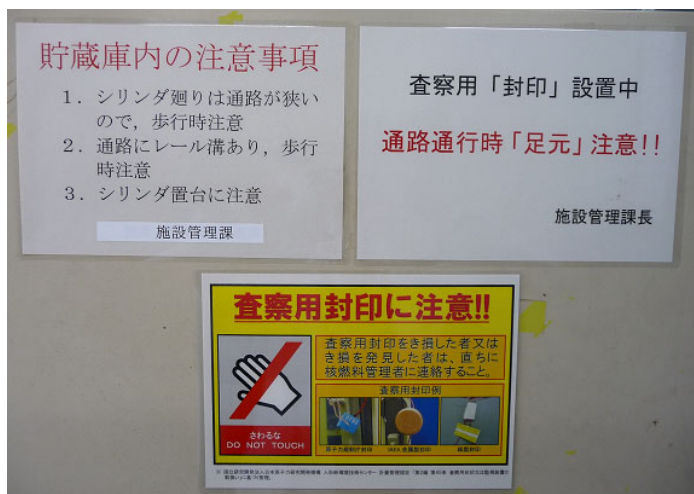
③写真 毀損した査察用封印(2)



④写真 査察用封印の断面部の状況



⑤写真 他のシリンダの査察用封印の取り付け状況
(シール部が重なっている状況)



⑥写真 査察用封印毀損時の注意喚起等表示対策
(左：入口、右：シリンダ上部（個別に表示）)